# 揺籃

学校だより**令和8年6月 29 日　No. 334**
柏崎市立柏崎小学校
柏崎市学校町１番 88 号
TEL0257-22-2196　FAX0257-24-0304
HP http://www.kenet.ed.jp/hakushou/
E-mail hakushou@kenet.ed.jp
学校 HP

## 「勝負」の意義

**体育主任　山本　直也**

近年、教育現場をはじめ、世の中全体が「個性を大切に」**「人と比べる必要はない」**というような「多様性」を重視するようになったと感じます。その中で、運動会や親善陸上大会のように、**明確に勝敗をつける**場合があります。学習指導要領では、全学年の体育の内容に**「勝敗を受け入れる」**という言葉が記されています。

今年度の運動会では、北海が応援と競技のダブル優勝という結果になりました。北海にとっては非常に嬉しく、荒波にとっては非常に悔しかったと思います。

一昔前には、「みんなで手をつないで一緒にゴールする」といった運動会があったという話を聞きます。もちろん、運動がとても苦手な子などにも勝てるチャンスがあるようなルールの工夫は必要です。「勝つ喜びを平等に」という考えならば、今年度の優勝を競技と応援で１つずつ分けることもあるかもしれません。それでは、子どもの努力や勝負に対する純粋な思いを否定することになりかねません。勝負となれば、勝敗の基準は平等でなければなりません。

運動会後、子どもたちに話を聞くと北海の子は「ダブル優勝できて嬉しかった」と言っていました。荒波の子は「悔しかった。来年は絶対勝つ」や「負けたけど、全力を出せて楽しかった」など悔しい気持ちがありつつも、全力を出して負けたことで、**悔しさ以外の思いも生まれている子**が多かったです。

親善陸上大会に向けて、体育の授業や放課後、中には、休み時間にも練習を重ねている６年生がいました。陸上大会当日に、選手と話をしました。自己ベストを出して満面の笑みを見せる子や練習どおりにいかず本当に悔しそうにしている子、他校の優れた選手のことを話す子など様々でした。自己ベストを出せた要因として、自分が知らない他校の選手と競ったことがあると思います。相手の力量がある程度分かっている運動会と違い、親善陸上大会は相手の力量が分かりません。そのため、自分の全力を出し切らないと勝てないという状況になり、練習以上の力が出せることがあります。

**勝つことを目指して精一杯努力**する。**負けた反省や悔しい気持ちを次に**つなげる。この経験をできることが教育における「勝負」の意義だと考えます。運動に限らず、学習や芸能など様々な分野に共通する考え方ではないでしょうか。子どもたちはこれからの人生で、受験や就職、仕事での結果など、他の誰かと競う場面は少なからずあります。自分の夢や目標を叶えるために一生懸命努力し、失敗しても次の成功につなげる。そのような力を育めるように教育活動を進めていきます。